

23: 海外ドナーからの移植

1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 中瀬 浩一	愛媛県立中央病院	血液内科
飯田 美奈子	愛知医科大学	造血細胞移植振興寄附講座
一戸 辰夫	広島大学病院	血液内科
東梅 友美	ミンガン大学	
三田村 真	サーモフィッシュャーサイエンティフィック株式会社	
木村 文彦	防衛医科大学校病院	血液内科

2. 承認研究の進捗状況(2016 年 1 月-12 月 ※JSHCT2017 を含む)

23-1	「海外非血縁ドナーからの造血幹細胞移植の成績に関する検討 ～国内非血縁ドナーからの骨髄移植・さい帯血移植との matched-pair 解析」 PI:一戸辰夫
学会発表: 済 (WG 研究業績一覧参照)	
論文業績:	
23-2	「海外ドナーからの移植例における HLA 型の特徴についての研究」 PI:中瀬浩一
学会発表: 済 (WG 研究業績一覧参照)	
論文業績:	

3. 会議開催記録(2016 年 1 月-12 月)

日時	場所	会議内容
3 月 4 日	名古屋国際会議場	23-2 の研究結果と新規研究について
7 月 10 日	名古屋第一赤十字病院	新規研究について

4. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2016 年 12 月末時点まで)

(312) 回

5. WG の今後の活動方針・抱負など

日本骨髄バンクを介した(国内ドナーからの)移植件数は平成25年をピークに減少傾向がみられています。臍帯血移植・ハプロ移植の普及も影響していると思われ、造血細胞移植の幹細胞源の選択に今までにない変化が起きている時代と考えます。ドナー選択が混沌とした時代であるからこそ、国内で血縁・非血縁の HLA 適合ドナーが得られない患者さんのために、海外ドナーからの移植成績、海外ドナーからの移植が考慮される HLA ハプロタイプの特徴、海外ドナーから移植に至るまでのコーディネート状況をはっきりとさせておく必要があると我々は考えています。

当 WG の過去の研究において、海外非血縁ドナーからの移植の成績は国内の臍帯血や骨髄バンクを介した移植と遜色がないと考えられること(WG 研究23-1)、海外ドナーからの移植例の HLA の特徴(WG 研究23-2)を示してきました。今後、海外ドナーからのコーディネート期間やコーディネート人数等の分析を行うべく、新たな研究

として過去の海外非血縁ドナーからの移植症例の、コーディネート状況についてのデータを集積中です。この研究によって、海外ドナーからの移植を行う場合にどの程度の日数で移植に到達できるのかが明らかになります。当 WG で行った海外ドナーからの移植の際の HLA ハプロタイプの特徴の研究結果とあわせれば、国内で比較的まれな HLA ハプロタイプを持つ患者の幹細胞源の選択の際に、有用な指標を示せるのではないかと考えています。

また、海外ドナーからの移植症例のコーディネート期間やコーディネート人数を海外のバンクごと、年代ごとに JMDP のデータと比較することで、JMDP のドナーコーディネート期間の短縮のためのヒントが得られるのではと考えています。

以上のような目標で、当 WG の活動を継続していきます。